

新東名高速道路秦野サービスエリア（仮称） スマートインターチェンジの実現を目指して



秦野 SA(仮称)周辺のイメージ図

広域交通ネットワークの整備とあわせ、
自然と共生し利便性の高い都市、活力ある産業の都市、
魅力ある交流の都市づくりをめざす。



秦野市

1. 新東名高速道路と秦野SA(仮称)の概況

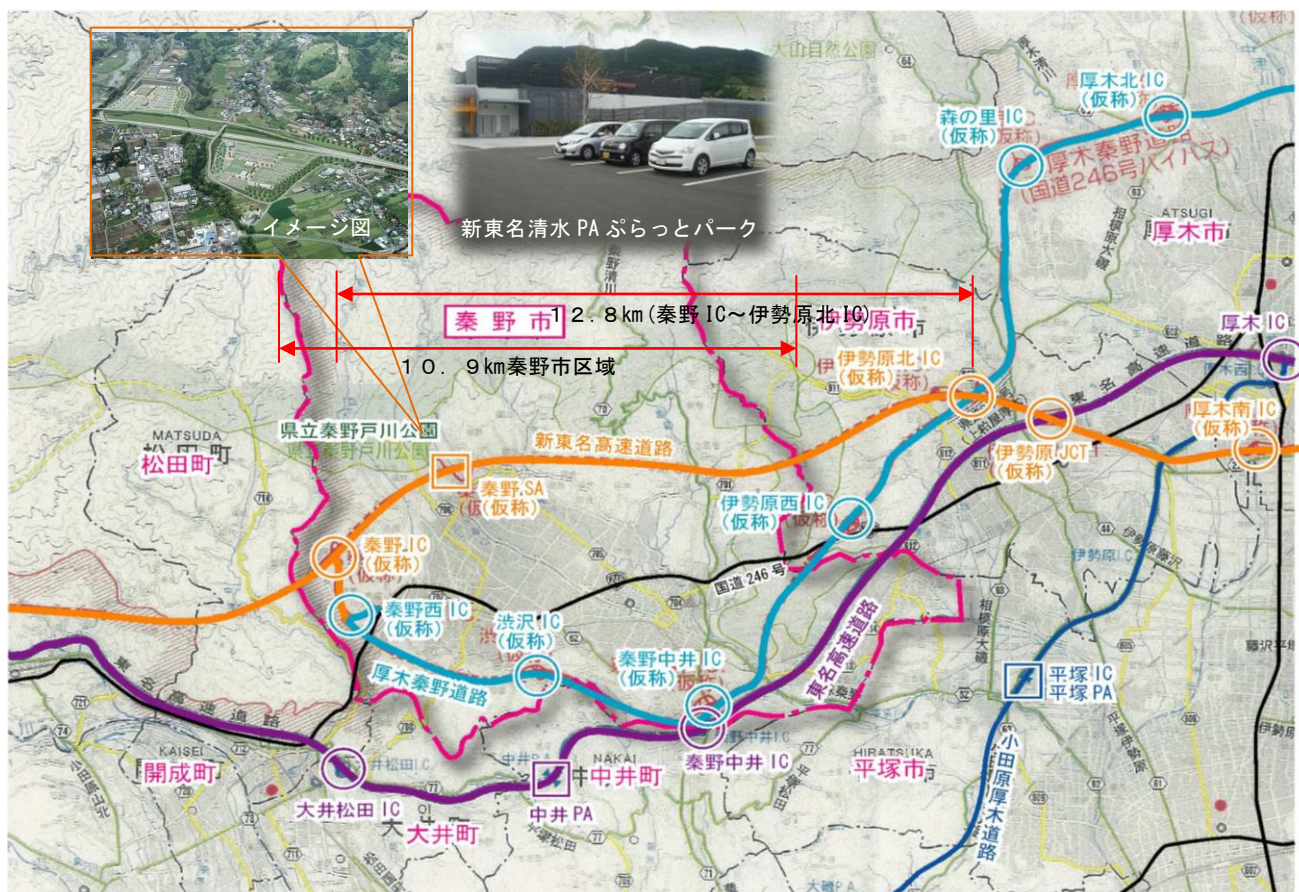
■ 新東名高速道路

- 新東名高速道路は、21世紀におけるわが国の産業、経済の発展と東西の交流を支える国家的なプロジェクトとして計画された高規格幹線道路です。東名高速道路と一体になって、高速道路本来の機能である定時制、快適性を確保するとともに、地震や交通事故等の災害時における代替ネットワークとして、信頼性の確保に大きな役割を果たすものと期待されています。
- 平成24年4月、御殿場JCT～三ヶ日JCT間の約162kmが部分開通し、今後2014年度(平成26)には、浜松いなさJCT～豊田東JCTの約53km、秦野区間(約10.9km)を含め2020年度(平成32)には、伊勢原北IC～御殿場JCT間が開通する予定で事業が進められています。最終的には、海老名南JCT～豊田東JCT間の全長254kmの高速道路が完成する予定です。

■ 秦野サービスエリア(仮称)

- 新東名高速道路秦野SA(仮称)は、新東名高速道路の起点となる海老名南JCTから下り線の最初、上り線の最後のサービスエリアとなります。上下線(横野・戸川地区)とも約6.6ha規模のサービスエリア(駐車場、トイレ、休憩スペース、商業施設、給油所等)が計画されています。
- 既に供用された新東名高速道路のサービスエリアやパーキングエリアには、一般道から利用できる駐車施設「ぷらっとパーク」が併設されており、秦野SA(仮称)へも計画されています。

※「ぷらっとパーク」とは、サービスエリア周辺の方が、一般道から利用できるように出入口付近を整備しているパーキングエリアの名称

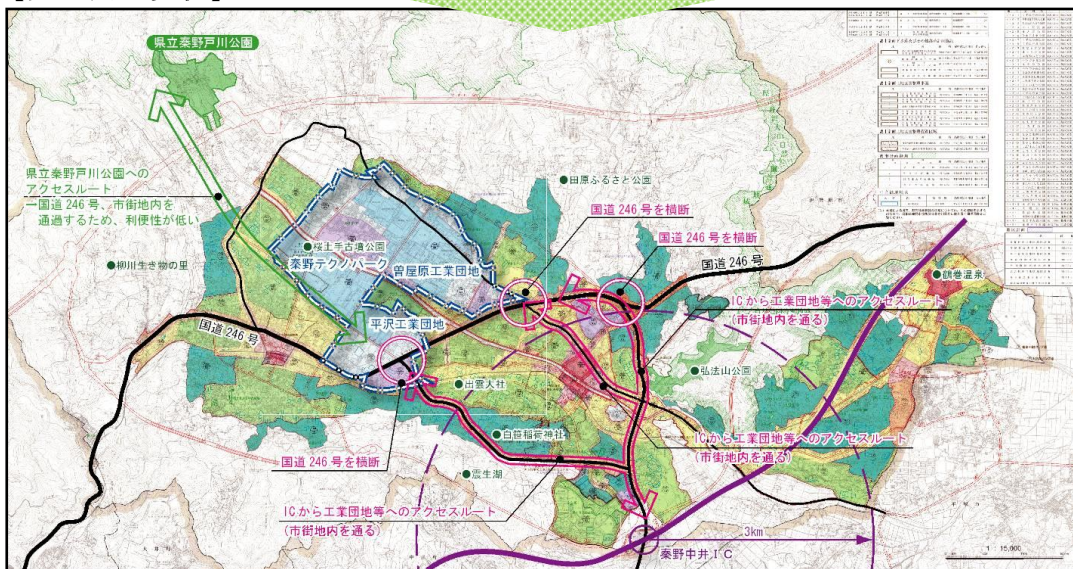


2. 秦野市の交通面等の現状と課題、展望

《交通面等の現状・課題》

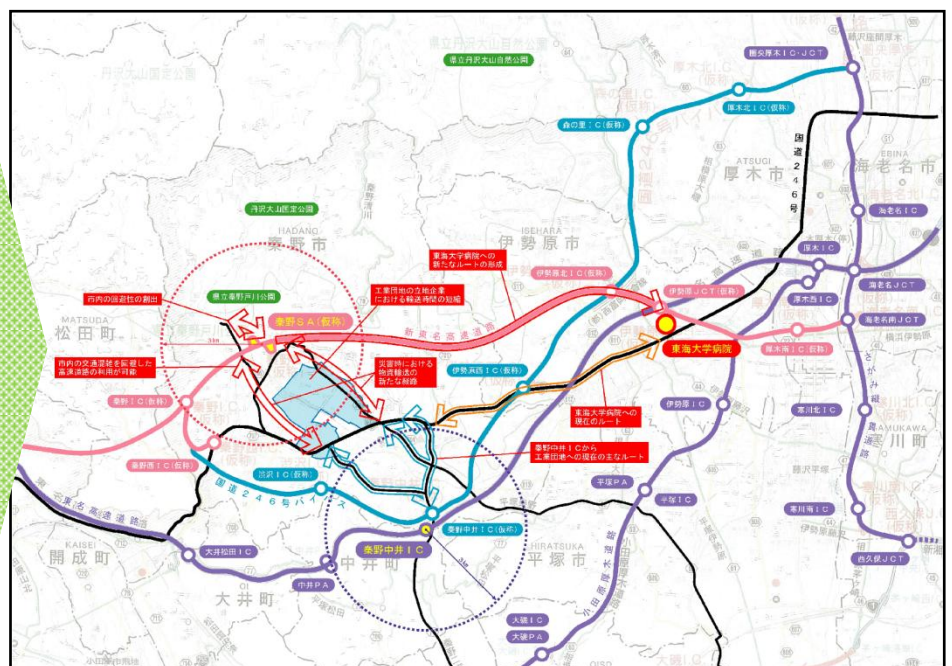
- 市街地の大部分は、秦野盆地に位置し、中央を東西に国道 246 号が走っています。国道 246 号は、東京と東海地方を結ぶ物資輸送や産業活動を支える重要な道路です。
- 国道 246 号は、県の中央部を東西に走る広域幹線道路であり、産業、経済の発展に、また地域住民の生活道路として重要な役割を果たしています。しかし、都市化の進展に伴い交通量が著しく増大し、当市内においては、平均旅行速度が約 15km/h と低く、渋滞時には当市区間（約 10km）を通過するのに 1 時間以上を要します。
 新東名高速道路、厚木秦野道路の整備促進による沿道の生活環境の改善が求められています。
- 市内に立地している曾屋原工業地、堀山下テクノパーク、平沢工業団地や、丹沢大山国定公園、県立秦野戸川公園は、市街地の北側に位置しています。市域の南側にある東名高速道路の秦野中井 IC からは、小田急線、水無川、国道 246 号を横断するため、産業活動や観光交流に影響を与え、交通の利便性に課題があります。また、緊急時における救援活動への対応も懸念されます。

【交通面の現状】



《秦野 SA (仮称) マート IC 実現による展望》

- ⇒神奈川県西部におけるマグネット力のある広域拠点の形成
- ⇒東西を結ぶ市北部の新たな広域の玄関口の確保
- ⇒丹沢の玄関口を活かした周辺観光施設等への回遊性の創出
- ⇒ICへのアクセス性を生かした産業活動の活性化
- ⇒ICへのアクセス性を生かした防災、救急体制の強化など



3. 秦野SA(仮称)スマートICの必要性等

■ スマートインターチェンジとは

- 全国各地において、既存の高速自動車国道の有効活用や、地域生活の充実、地域経済の活性化を推進するため建設・管理コストの削減が可能なスマートインターチェンジ(スマートIC)の導入が進められています。
- スマートインターチェンジは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、通行可能な車両(料金の支払い方法)を、ETCを搭載した車両に限定しているインターチェンジです。
- スマートICは、全国で67箇所整備(平成25年12月現在)され、地域生活の充実、地域経済の活性化など地域社会に様々な効果をもたらしています。
- 秦野SA(仮称)にスマートIC導入を実現化することにより、市街地のほぼ全域がICの3~5km圏域に入り、次のような効果をもたらすことが期待されます。



【SA・PA接続型イメージ図】



【静岡 SA スマートIC (新東名高速道路)】

■ スマートICの必要性

① 交通利便性の向上と円滑で安全な交通の確保

秦野IC(仮称)~伊勢原北IC(仮称)間は、12.8Kmと長く、秦野IC(仮称)は市の西端、東名高速道路の秦野中井ICは、南端に位置するため、本市は約17万の人口を抱えますが、北部地域は、高速道路へのアクセスの利便性が十分に確保できません。また、秦野IC(仮称)、秦野中井ICへのアクセスは、国道246号、水無川、小田急線を横断するため、市街地道路の混雑の要因となります。スマートICを整備することにより、市域全体の交通利便性の向上と交通流の分散を図り、市街地の円滑な交通を確保する必要があります。

② 工業の振興と産業活動の利便性の確保

本市の産業を支える製造業の約8割が市街地の北西部の曾屋原地区、堀山下地区に集積し、一団の工業団地を形成していますが、秦野中井IC、秦野IC(仮称)のいずれからも15分圏域外の位置にあります。また、近年は、従業員数、製造品出荷額は減少し、産業活力の低下が懸念され、新規の企業立地件数が低迷しています。工業団地へのアクセスの向上を図るスマートICの整備により、産業競争力の強化と企業立地の促進を図る必要があります。

③ 地域資源を活かした地域活性化の確保

自然や農とのふれあい、食への関心が高まっている中で、本市においても、観光・体験型農園や農産物直売施設(ファーマーズマーケット)が人気となっています。秦野SA(仮称)周辺は、主要観光地である県立秦野戸川公園が位置し、丹沢登山の玄関口でもあります。また、多様な農林業資源に恵まれていることから、市では、スマートICの整備を契機に、SA周辺地域において、地域特性を生かした観光・交流の拠点の形成を目指しています。

④ 救急・救命活動の向上

市内には、第三次医療施設がなく、最寄りの東海大学医学部付属病院へは、国道246号が唯一の搬送経路となっています。新東名高速道路を活用した新たなルートの確保により、所要時間の短縮と安全性の確保により、地域医療体制の向上を図る必要があります。

⑤ 大規模災害対策及び減災対策の強化

県西部地震や東海地震等の切迫性が指摘されています。大規模災害時に、新東名高速道路や国道246号が寸断されれば、救援・復旧活動に大きな支障を及ぼします。市街地に近いスマートICを拠点とした代替アクセスルートを確保することにより、災害時の迅速な支援体制を強化する必要があります。

4. 秦野SA(仮称)スマートICの整備効果等

【整備効果1】 高速道路利用者の利便性向上と円滑で安全な交通の確保

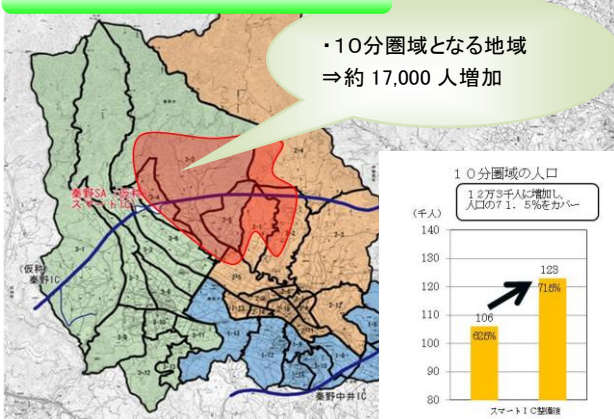
◆高速道路へのアクセス性の向上

秦野中井IC、新設される秦野IC(仮称)は、それぞれ、市の南端、西端に位置します。市の北部に秦野SAスマートIC(仮称)が整備されれば、市域がほぼインターチェンジから5km圏域となります。さらに、市街地に近接することから、新たに10分圏域(3km圏域)となる人口は、約1万7千人増加し、全体で約12万3千人となります。

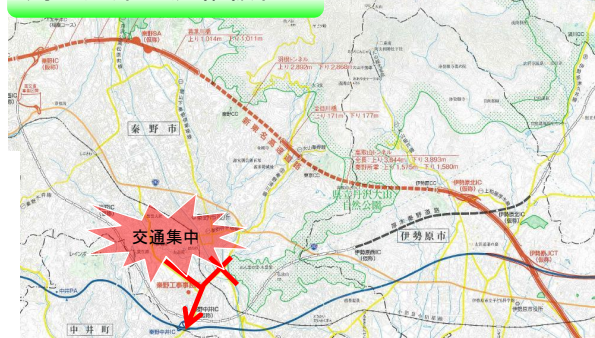
◆円滑で安全な交通の確保

秦野SAスマートIC(仮称)の設置により、秦野中井IC利用からスマートICへの転換や、一般道路から高速道路への転換により、混雑箇所の通過交通が分散され、一般道路の混雑が軽減されるとともに、沿道環境の改善や交通事故の減少が図られます。

高速道路へのアクセス向上



周辺道路の混雑緩和



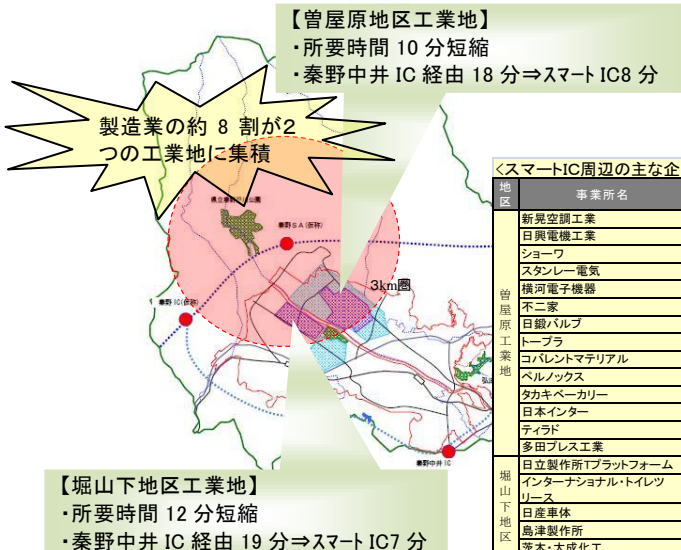
スマートICへの転換により、秦野中井ICに向かう交通量が減少し、混雑が緩和

【整備効果2】 産業活動の活性化と企業立地の促進及び雇用創出

◆インターチェンジへの近接性を活かした産業活動の利便性

秦野SAスマートIC(仮称)の整備により、曾屋原工業地や堀山下地区の工業地のほぼ全域が3km圏内となり、アクセス時間の短縮により産業活動の活性化が期待されます。また、首都圏方面だけではなく、中部圏方面へのアクセスの向上により、企業立地の促進や事業規模の拡大による就業機会、雇用の拡大が期待されます。

アクセス時間の短縮による産業活動の活性化



地区	事業所名	産業中分類
曾屋原工業地	新興空調工業	電気機械器具製造
	日興電機工業	電気機械器具製造
	ショーワ	輸送用機械器具製造
	スタンレー電気	電気機械器具製造
	横河電子機器	業務用機械器具製造
	不二家	食品製造
	日銀バルブ	輸送用機械器具製造
	トーブラ	金属製品製造
	コバレンテマテリアル	生産用機械器具製造
	ヘルノックス	プラスチック製品製造
堀山下地区	タカキベーカー	食品製造
	日本インター	電子部品デバイス製造
	ティアド	輸送用機械器具製造
	多田プレス工業	輸送用機械器具製造
	日立製作所プラットフォーム	情報通信機械器具製造
	インターナショナル・トイレット	化学工業
	日産車体	輸送用機械器具製造
	島津製作所	生産用機械器具製造
	茨木・大成化工	プラスチック製品製造

物流の広域連携と企業立地ポテンシャルの向上



企業立地に関わる市内企業アンケート H21.3

【調査対象】

市内企業 390 社(商工会議所工業部会、大規模小売店舗)

【回収率】

48.2%(188 社回答/390 社)

●インターチェンジ等の整備による効果や期待

《期待する効果(全体)》

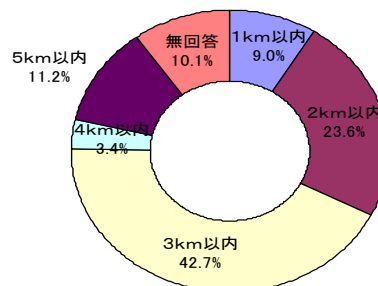
- ①「物流等における移動時間の短縮」が最多(71.3%)
- ②「新たな取引先(取引機会)の増加」21.8%

選択肢	回答数	割合
1 物流等における移動時間の短縮	134	71.3%
2 人的交流の機会の増加	16	8.5%
3 新たな取引先(取引機会)の増加	41	21.8%
4 人材確保の可能性の増加	10	5.3%
5 物流施設との近接性	28	14.9%
6 他企業との交流機会の増大	25	13.3%
7 その他	5	2.7%
無回答	26	13.8%
回答事業所数	188	100.0%

●企業が望むインターチェンジまでの移動距離・移動時間

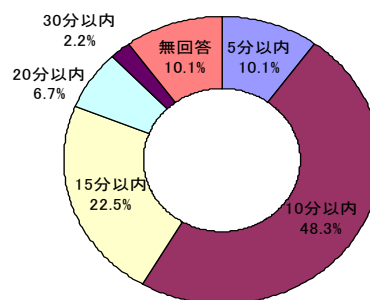
【近接性を重要視している事業所】

◆IC までの距離3km以内 約 75%以上



◆移動時間 10分以内で約6割

15分以内で約8割以上



【整備効果3】 農業資源や観光資源を活かした地域の活性化

◆多様な「農」との交流や農産物ブランドの販路拡大による地域経済の活性化

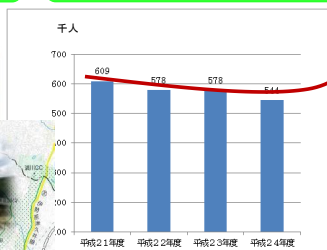
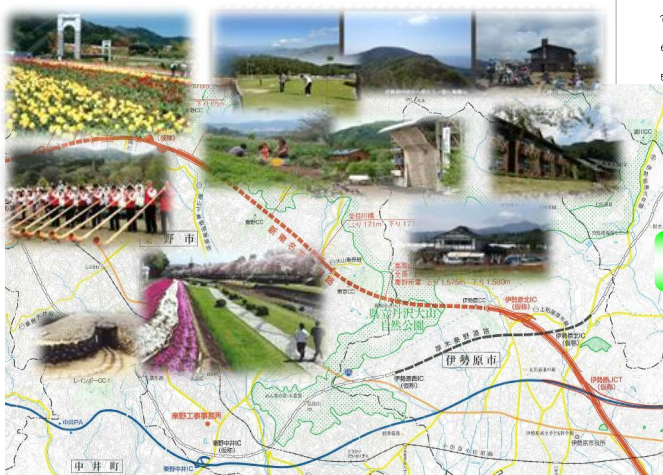
秦野SAスマートIC(仮称)の周辺は、いちご、ブルーベリー、落花生の収穫、そば打ち体験など、様々な観光・体験型の農園が立地しています。さらなる交流機能の拡充により、集客の拡大が見込まれます。また、野菜、果樹、花きなど、ブランド品の消費や販路の拡大が期待されます。

◆観光資源を活かした地域経済の活性化

秦野SAスマートIC(仮称)のすぐ北側は、年間数十万人の来場者で賑わう県立秦野戸川公園が位置し、丹沢登山の玄関口でもあることから、首都圏や静岡県方面からの日帰り観光客の飛躍的な増加が見込まれます。また、スマートICを拠点として、観光施設や観光資源の回遊により地域経済の活性化が期待されます。

観光施設、地域資源へのアクセス向上

県立秦野戸川公園 50万人を超える観光客数をさらに増加



主要農産物の状況

第61回全国植樹祭会場

落花生		県内生産量の約5割を占め、人気も高く本市を代表する名産品となっている。また、落花生を使用した食材や菓子等の加工品も多く、販路の拡大が期待される。
いちご		県内有数の産地で、品種は大粒の「章姫(あきひめ)」が約8割を占める。品評会での評価も高く、ブランド力を高めることにより、出荷量の増加が期待される。
花き類		カーネーションは、全国有数の産地で、バラ、シクラメンとともに、東京市場をはじめ、関東一円の生花市場へ出荷されている。
食用八重桜		八重桜は、全国でも有数の生産地で食用八重桜は全国のシェアの7~8割を占める。特産品の「桜漬け」のほか、アイスクリームやワインなどに加工販売されている。

【整備効果4】 第3次救急医療施設への搬送時間短縮による救命率の向上

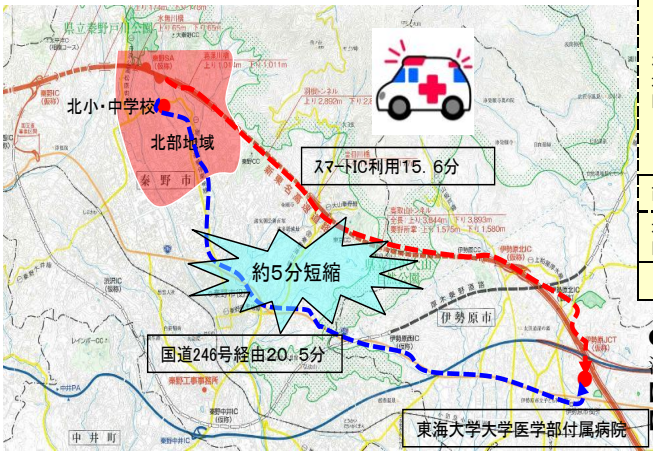
◆高速道路を利用した第三次医療施設へのアクセス性の向上

第三次救急医療施設である東海大学医学部付属病院への搬送は、国道246号が唯一のルートでしたが、秦野IC(仮称)及び秦野SAスマートIC(仮称)を介した搬送が可能となり、アクセス性が向上します。特に市街地の北部地域については、スマートICの利用により、搬送所要時間の短縮による救命率の向上が期待されます。

◆救急・救命活動の向上

高速道路の走行により振動が抑えられ、車内での救急処置、手当てのしやすさの向上が期待されます。また、救急搬送時の患者の身体的負担の軽減が図られます。

第三次救急医療施設への搬送時間短縮



●東海大学医学部付属病院への搬送件数・移動時間(H24年)

地区別	発生件数	現場から東海大学病院までの平均搬送時分	搬送経路	平均搬送時分	
北地区	羽根	12件	20.5分 ※国道246号利用	15.6分	
	菩提	24件			
	横野	2件			
	戸川	36件			
	三屋	7件			
西地区	堀山下	40件	20.6分	秦野IC	-
地区	その他の西地区	270件	19.6分		
上地区	29件	24.0分			

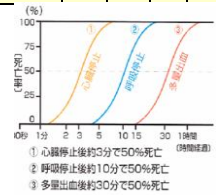
●(例:多量出血の場合)

消防署本署～現場(北小学校)～東海大病院

【現況】 31分(死亡率約50%)

【スマートIC利用】 26分(死亡率約33%)

死亡率約17%低下



【整備効果5】 代替ネットワークの確保による防災拠点機能の強化及び復旧活動の迅速化

◆防災拠点機能の強化等

県西部地震、東海地震等の切迫性が指摘されています。秦野SAスマートIC(仮称)は、自衛隊派遣部隊の受け入れや広域避難場所等への物資の搬送等、防災拠点機能の強化が図られます。

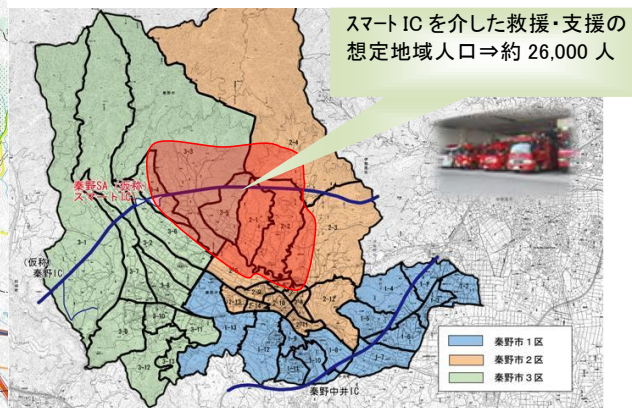
◆迅速な救援・救助、復旧活動の向上

市内を走る国道246号は、東京と東海地方を結ぶ物資輸送、産業活動を支える唯一の広域幹線道路です。この国道246号及び東名高速道路において事故等による通行止めが生じた場合、秦野SAスマートIC(仮称)からの乗り入れにより、緊急時における地域交通の円滑性が確保されます。また、東名高速道路や国道246号の代替ネットワークとして、災害時における新たな物資輸送路等が確保され、迅速な救援・救助、復旧活動への貢献が期待されます。

緊急車両到着時間の短縮



●代替ネットワークの確保による地域防災体制の強化





”丹沢むすぶ君”

『街と街・人と人を結ぶタスキ』を掛け、広域交通ネットワークの整備とあわせ、自然と共生し利便性の高い都市、活力ある産業の都市、魅力ある交流の都市づくりを目指すイメージキャラクター。可愛いETC専用メガネが特徴。



平成 26 年 3 月作成：秦野市政策部新東名周辺整備担当

電話：0463-82-5111(内)2596・2597

FAX：0463-84-5235

E-mail：s-tomei@city.hadano.kanagawa.jp

秦野S A (仮称)スマートICを活かした 周辺土地利用構想

■構想の背景・目的・目標

背景

- 秦野市内には、新東名高速道路・厚木秦野道路(国道246号バイパス)の整備により複数のインターチェンジ等の設置が予定されています。
- 広域交通ネットワークの整備、充実が図られることにより、東西の交流圏の拡大、交流の活発化が予想されます。
- 広域交通ネットワークの整備を契機として、地域経済の活性化や観光振興等の効果を的確に取り込み、新たな拠点の形成に向けた、まちづくりを目指す必要があります。

目的

- 平成32年度の供用を目指す新東名高速道路の秦野S A (仮称)にスマートICを整備することにより、交通の優位性を活かした周辺の土地利用構想を策定するものです。
- 本構想は、本市の持続的な発展と魅力ある都市づくりの実現に向け、インターチェンジ等の周辺の望ましい土地利用(市域の均衡ある発展と活性化)の方向性を示すものです。

□■目標■□

広域交通ネットワークの整備とあわせ、自然と共生し利便性の高い都市、
活力ある産業の都市、魅力ある交流の都市づくりをめざす。

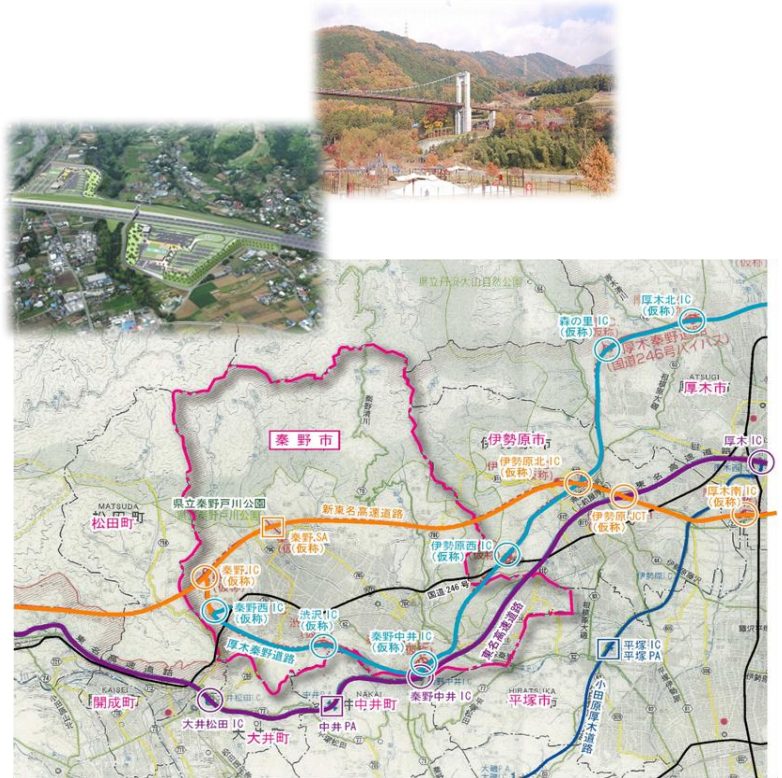


秦野市

■構想の検討範囲等

検討範囲

- インターチェンジ等からおよそ3 km圏内を本構想の検討範囲として設定します。
- 秦野 SA (仮称) の周辺は、大部分が市街化調整区域となっています。土地利用構想の検討に当たっては、現行の法的土地利用規制の枠組要件にとらわれず検討を加えています。

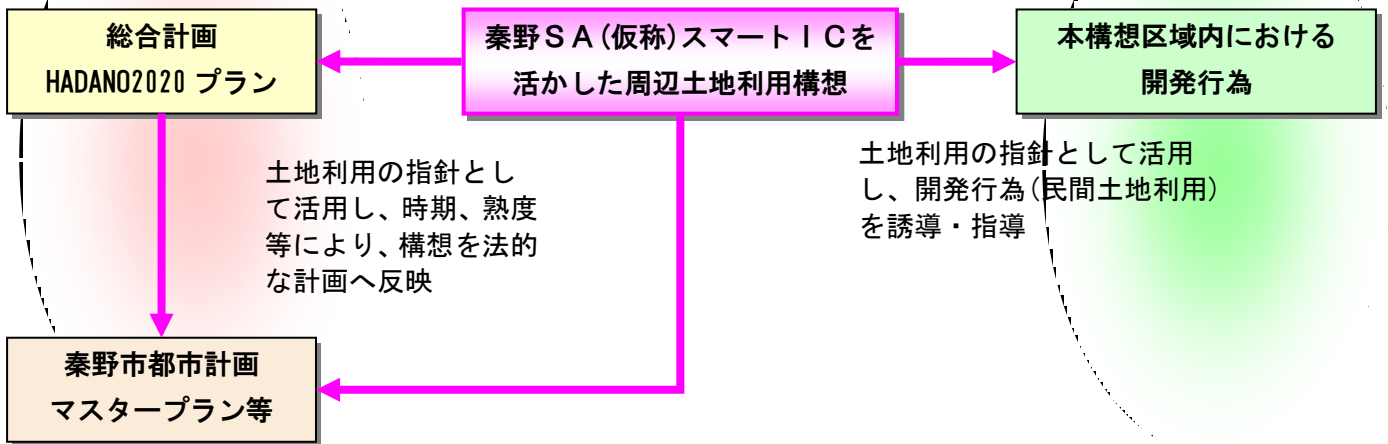


- 新東名高速道路⇒平成32年度開通予定(秦野 IC(仮称)の整備、秦野 SA(仮称)へのスマートIC整備実現化)
- 新東名高速道路により広域交通ネットワークに直結
- 秦野市は、中部圏から首都圏へ入る神奈川の西の玄関口

■構想の位置付け・役割

■土地利用に関連した計画、施策展開の中での一つの指針として活用

■市街化調整区域における開発を誘導・指導する指針として活用



秦野市都市計画マスタープラン

分野別都市づくりの方針

◆土地利用の方針

<産業系土地利用検討ゾーン>

- 都市計画道路第二東名自動車道（新東名高速道路）の秦野サービスエリア（仮称）の周辺部は、スマートインターチェンジの計画の具現化を図り、周辺環境に配慮し、産業系土地利用について検討する。

◆交通体系形成の方針

<将来に向けた体系的な道路網の形成>

- 本市は、県央の西部における交通の要衝であり、交通需要に対応した道路網の形成を目指す。
- 都市計画道路第二東名自動車道（新東名高速道路）については秦野サービスエリア（仮称）のスマートインターチェンジの計画の具現化を図り、アクセス道路の確保も含め、た周辺の道路網について検討する。

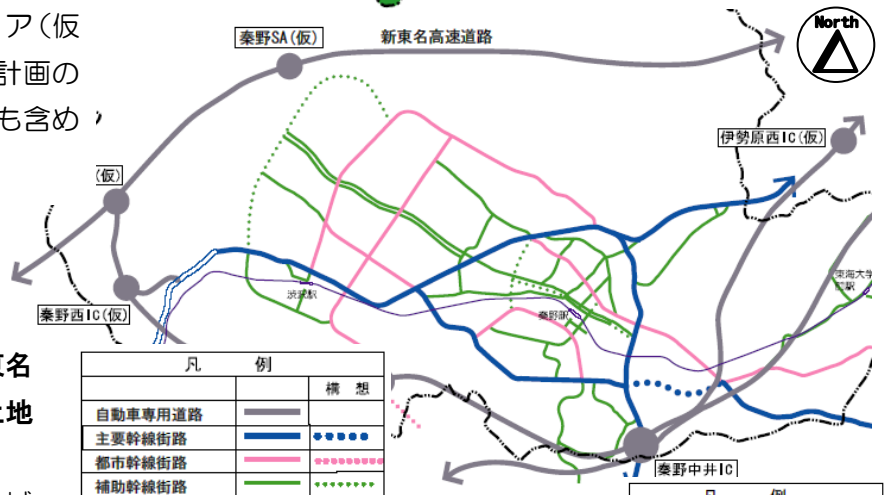
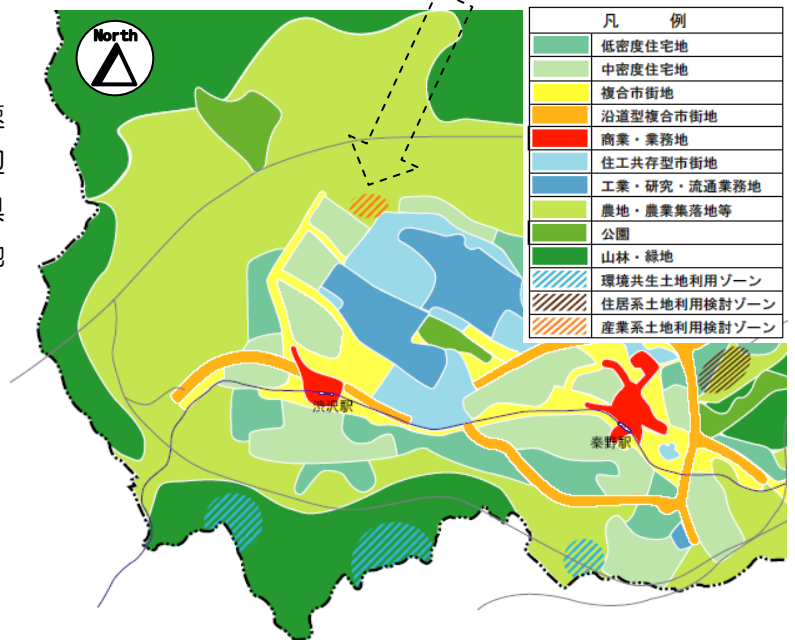
地区別まちづくり方針

◆北地区

<都市計画道路第二東名自動車道（新東名高速道路）整備を契機とした新たな土地利用の形成>

- 秦野サービスエリア（仮称）の周辺地域については、スマートインターチェンジの計画の具体化を図る。
- 農地と住宅地との調和に配慮しつつ、近接する既存の工業地域との連携を図る。
- 産業の発展と地域活力の活性化に向け、地域資源を生かした「産業活力と交流の拠点」の形成を目指した土地利用の検討を進める。検討に当たっては、住民等の意見を十分踏まえつつ計画的な土地利用を目指す。
- スマートインターチェンジを生かした、都市計画公園秦野戸川公園（県立秦野戸川公園）と一体的な地域振興を目指す。

産業系土地利用検討ゾーン



■ 秦野SA（仮称）上下線土地利用の方向

基本方針及び構想区域のテーマの設定

■ 都心に直結する新しい玄関口として、観光や農業資源、レクリエーション機能の活用や創出により都市住民との交流による地域振興を図る。

■ 広域交通の利便性を活かし、企業立地の促進等による近接工業団地の活性化や新たな産業用地の創出により、産業基盤の強化を図る。

□■ テーマ ■□



丹沢の自然と出会う空中庭園 “スカイガーデンHADANO”



導入機能の検討

主な地域（市域）特性等

【秦野市総合計画 基本構想】

■ 都市像 **みどり豊かな暮らしよい都市**
丹沢の水と緑にはぐくまれ、
人が輝き躍動する交流都市

【自然特性】

- 盆地特有の気候（霜や雪が少ない）
- 豊富な地下水
- 市街地を除く大半が斜面地

【立地特性】

- 大都市部に近接
- 丹沢大山国定公園等の指定
- 良好な広域交通利便性

【社会特性（市街化調整区域内）】

- 既存集落等の過疎化の進行
- 農業従事者数の減少
- 耕作放棄地等の増加

【産業特性】

- 県内最多の市民農園の分布
- 市街化区域周辺の大半が農地
- 内陸型工業と沿道型商業の集積
- 研究・開発型機能集積の促進

導入適正機能

広域集客施設と工業系用地に隣接する地域ポテンシャル、優位性を活かした
産業利用・複合型農業生産拠点機能の強化

主な地区条件等

【秦野市総合計画 基本計画】

■ 北地区の目指すまちの姿
豊かで美しい自然と共生し、穏やかに暮らせるまち
新東名高速道路の整備を生かした利便性の高い活力あるまち

【土地条件】

- 市街化調整区域（市街化区域（住居系・工業系用途）に隣接）
- 大半が農業振興地域農用地地区
- 高生産農地地区

【周辺状況】

- 北地区中心部に隣接
- 県道堀山下秦野停車場線が供用
- 矢坪沢が東西方向に貫流

【農業生産環境（保全すべき資源）】

- 茶、施設園芸、みかん、畜産に普通作物を組み合わせた複合型農業経営
- 農産物直売などの交流型農業

【SA関連事業（構想等を含む）】

- スマートICの設置
- 矢坪沢の保安林再生事業
- SA～県道堀山下秦野停車場線～市街地を結ぶ道路の整備

当該地区への導入適正機能は、市域全域についての主な地域特性（広域的見地）と拠点整備地区の地区条件（即地的見地）との両面より、サービスエリアや県立秦野戸川公園の集客効果とともに、工業系用途地域に指定されている市街化区域に隣接した位置的な優位性を活かし、産業利用や多機能をあわせもつ複合型の農業生産拠点機能の強化を図る。

■土地利用の導入機能、配置計画等

地域活性化の方針、土地利用のゾーニング及び導入施設の例

観光・スポーツ・レクリエーションゾーン

方針1 自然環境を活かした観光・スポーツ・レクリエーション機能の導入

◇現況

- 豊かな自然環境に恵まれ、さらに、スポーツ・レクリエーション施設が整備された県立秦野戸川公園を有しています。



秦野SA（仮称）北側は、県立秦野戸川公園を核として、表丹沢野外活動センター、ゴルフ場、その他の未利用地等に良好な自然環境を活かした観光・スポーツ・レクリエーション施設や宿泊施設等、さらには、訪れる人の消費活動を促す地場産品等の販売施設の立地・集積を図ります。

【導入施設例】

BMX（バイシクルモトクロス）場、MTB（マウンテンバイク）場、サッカー場、フットサルグラウンド、野球場、パークゴルフ場、宿泊施設、地場産品等の直売施設等

方針2 グリーンツーリズムを主体とした都市住民との交流機能の導入

◇現況

- いちごやブルーベリーの観光農園や市民農園、里地里山ふれあいセンター、表丹沢野外活動センター等の施設が立地しています。



活用ゾーン・ふれあい交流ゾーン

農地や良好な自然環境を活用し、観光農園やグリーンツーリズムによる都市住民との交流により、地域の振興を図ります。

【導入施設例】

市民農園（日帰り型・滞在型）、体験農業センター、観光農園、農業関連の講習会、農業体験ツアー、里地里山での自然体験、自然観察会、森林管理体験、炭焼き体験、竹細工体験等

方針3 スマートIC化の促進と産業機能の立地誘導

◇現況

- 秦野SA（仮称）にスマートインターチェンジが設置されれば、曽屋原工業地、堀山下テクノパーク等の既存工業団地へ最も近い交通結節点となります。

整備・開発（産業利用促進）ゾーン

スマートICの整備による市北部の交通結節機能の強化により、広域交通利便性及び地域活力の向上といった相乗効果を創出する。また、既存工業団地の未利用地への企業誘致促進を図るとともに、工業系用途地域の隣接地については、産業利用促進ゾーンに位置づけ、周辺環境や営農環境との調和を図りながら、産業系土地利用を検討し、物流系等の企業立地を誘導し新たな産業拠点の形成を図ります。

構想区域・幹線道路の配置方針

構想区域の設定

構想区域の設定にあたっては、土地利用ゾーニング及び構想路線を含む幹線道路網の構成、サービスエリアからの距離と隣接する整備予定のインターチェンジの影響、地形・地物を考慮し、北側・東側については秦野SA（仮称）から概ね2 km、南側は、現在の市街化区域界、西側は堀川を境とする区域を、秦野SA（仮称）周辺土地利用構想区域として設定する。

幹線道路の配置方針

- ・構想路線である（仮称）菩提原並木線は、秦野市の北部の幹線道路として位置づけられており、本構想においても、幹線道路として位置づける。
- ・秦野SA（仮称）のスマートインターチェンジ化を前提に、交通の集散に必要な幹線道路整備の必要性がある。このため、既存の市街地と秦野SA（仮称）さらには、県立秦野戸川公園及び観光・スポーツ・レクリエーションの拠点を結ぶ新たな構想路線を検討する。

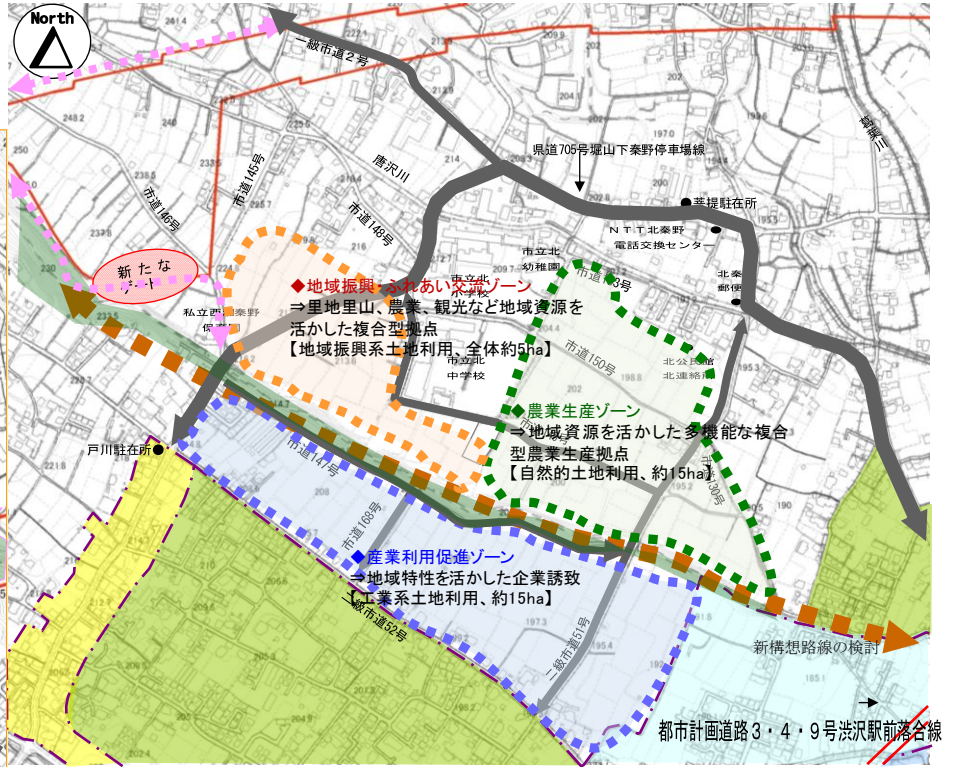
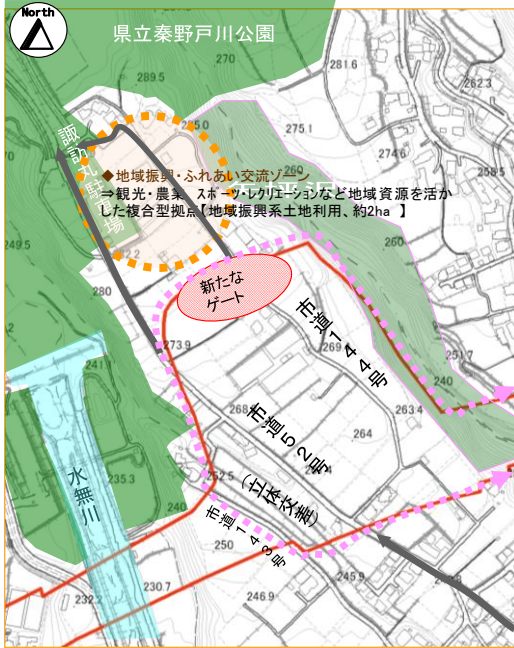
SA 周辺土地利用計画イメージ図



秦野 SA(仮称) 上り線周辺イメージ図



秦野 SA(仮称) 下り線周辺イメージ図



■上り線SA周辺

◀整備方針▶

スポーツ施設、地場産品等の販売等の地域振興に資する施設等を誘導し、県立秦野戸川公園と一体的な拠点の形成を図るスポーツ・レクリエーション拠点整備区域とし、より地域の活性化に資する土地利用への転換を図る。

◀土地利用配置計画▶

幹線道路沿道部に、地場産品等の販売等の地域振興施設を配置し、県立秦野戸川公園隣接部にスポーツ・レクリエーション施設を配置する。また、これらに必要な駐車場等は、それぞれのゾーン内で確保することとする。一部既存集落があることから、孤立化を招かぬよう周辺住環境との調和を図る。

■下り線SA周辺

◀整備方針▶

構想路線である(仮称)菩提原並木線沿道及びその内側の区域を、拠点整備区域とし、周辺環境や営農活動との調和に配慮しつつ、近接する既存の工業地域との連携を図り、産業の発展と地域活力の活性化に向け、地域資源を活かした土地利用の誘導を図る。

◀土地利用配置計画▶

地区内幹線道路沿道部等には、地域の農林業や周辺観光施設等との連携により、地域資源を活かした「地域振興・ふれあい交流ゾーン」を配置する。また、市街化区域の隣接地には、新たな産業拠点の形成を図る「産業利用促進ゾーン」を配置する。学校、公民館等の周辺部には、多機能型の「農業生産ゾーン」を配置し、周辺住環境と調和した複合型の市街地の形成を図る。

◀SA周辺の課題▶

- ・農地のほとんどが農業振興地域農用地区域に指定されていることから農政部局との調整により、開発にあたり農業振興地域農用地区域の解除が必要である。また、矢坪沢については保安林指定がなされており、道路等の整備に関しても保安林解除が必要である。
- ・産業活動の強化を導くため、サービスエリアへのスマートインターチェンジの整備実現化を図る。



秦野市民憲章

わたくしたち秦野市民は、丹沢の美しい自然のもとで、このまちの限りない発展に願いをこめ、ここに市民憲章を定めます。

- 1 平和を愛する市民のまち、
それは私たちの誇りです。
- 1 きれいな水とすがすがしい空気、
それは私たちのいのちです。
- 1 健康ではたらき若さあふれるまち、
それは私たちのねがいです。
- 1 市民のための豊かな文化、
それは私たちののぞみです。
- 1 みんなの発言で住みよいまちを、
それは私たちのちかいです。

平成 26 年 7 月作成：秦野市政策部新東名周辺整備担当

電話：0463-82-5111(内)2596・2597

FAX：0463-84-5235 e-mail：s-tomei@city.hadano.kanagawa.jp

